

令和7年度 医師、看護師等業務負担軽減、処遇改善計画

＜責任者と委員会＞

責任者を副院長とする「旭川医療センター職員 業務負担軽減、処遇改善に関する検討委員会」を設置している。

＜勤務状況の把握＞

超過勤務実績については、安全衛生委員会において定期的に報告を行い、必要に応じた改善を行っている。

＜医師・看護師の業務負担軽減に係る取り組み計画＞

平成19年12月28日 医政発第1228001号「医師及び医療関係職と事務職員等との間等での役割分担の推進について」

による役割分担の見直しも含め、以下のとおり計画する。

国立病院機構旭川医療センター

区 分	事項	現状・問題点	具体的な計画
医師・看護師等	病院情報システムによる業務負担軽減	現在、電子カルテシステムを運用しており、全てシステム入力により対応している。	システムのセット入力化等により、引き続き作業効率の改善を図る。また、情報システム委員会等を活用し、機能の追加、改良等の検討を行っていく。
医師・看護師等	医師・看護師等の事務的業務負担軽減	外来クランク業務を委託し、医師、看護師の業務負担軽減を図っている。加えて、医師事務作業補助者の配置により、外来診察時の電子カルテ入力、診断書作成など医師の事務的業務負担軽減を実施している。6年度は医師事務作業補助者の退職の為、人員が不足している。	医師及び医療関係職と事務職員等との間等での役割分担、業務分担について継続して検討していく。一般病棟へのクランク配置を充実させ看護師の事務的業務負担軽減を図る。医師事務作業補助者については、引き続き人員を確保しつつ増員を検討していく。
医師・看護師等	医師・看護師の退院調整業務軽減 訪問看護稼働による業務負担軽減	連携登録医制度を設け、地域の医療機関との連携を強化しているほか、退院調整部門にMSW、看護師を配置することで医師に代わって他院との調整業務を行っている。	病病・病診連携を推進するとともに、退院調整の効率化により医師・看護師の業務軽減を図る。訪問看護ステーションの稼働により、実績を上げ医師の業務負担軽減を図っていく。
医師・看護師等	院内保育所の充実	院内保育所では、現在、希望者全ての子どもの受入を行っている。また、土曜日・日曜日も対応しており、職員へ働きやすい環境を提供している。	現状の体制を維持し、医師、看護師等に働きやすい環境を提供するとともに、利用職員の意見等を聞きながら、更なる充実に努める。
医師・看護師等	フレックスタイム制・短時間雇用等の促進	子育て中の職員や、家族の介護を行う職員を対象に「早出遅出勤務」「深夜勤務の制限」「時間外勤務の制限」や「育児時間」「介護休暇」等の取組みを行っている。	家族介護や育児支援を積極的に行いたい職員に柔軟な勤務体系を選択できる事を周知し、本制度の取得を促進する。
医師・看護師等	健康支援・ストレス軽減についての院内研修等の実施	院内の各委員会・部門主催で研修会等を企画し、実施している。	安全衛生委員会、医療安全管理委員会等と協力し、生活習慣・メンタルヘルス・院内暴力・ハラスメント対処等の研修会等を計画し、健康支援、ストレス軽減を推進する。
医師	診療看護師による業務負担軽減	医師の包括的指示の下、診療看護師が初期診療や特定医行為を行うことで、医師の業務負担軽減を実施している。	診療看護師の業務拡大について、JNP安全管理会議を中心に引き続き検討し、医師の業務負担軽減を図る。
医師	予定手術の術者への配慮	術者や第一助手の予定手術前の当直を免除している。	予定手術前の当直を免除するほか、診療援助の活用により手術業務の負担軽減を図る。
医師	当直割り振りに関する配慮	連続当直を行うことのないよう、割り振りに配慮している。	引き続き、連続当直を割り振ることのないよう配慮することで、業務負担軽減を図る。
医師	当直翌日の勤務に関する配慮	二次救急当番日の診療にあたった医師について、翌日に年休が取得できるよう各科で配慮し、体制づくりを行っている。	引き続き、年休を取得しやすい体制づくりに努めることで、業務負担軽減を図る。